

## 機関誌『精神保健福祉学』執筆要領

### 1. 原稿の送付方法

- [1] 原稿は、本編1部、コピー3部について、学会事務局（なお封筒の表に、「機関誌原稿」と朱書きすること）宛てに、簡易書留にて送付すること(投稿規程8参照)。送付された原稿は、原則として返却しない。
- [2] 投稿する原稿には、必ず「投稿連絡票(学会ホームページよりダウンロード)」に必要事項を明記して添付すること。

### 2. 論文の種類

投稿者は下記の論文の種類（論文、調査報告、実践報告、資料解題）のいずれを希望するかを示すこと。

- [1] **論文：論文は総説、原著論文のいずれかとする。**
  - ① **総説**：最近の国内外の原著論文などを総括的・客観的に分析及び評価した上で、精神保健福祉学の将来の展望を示したもの。
  - ② **原著**：国内外の研究課題に関連する類似の研究を概観した上で新たな研究課題を見出し（原著性の明確化）、精神保健福祉学の発展に貢献する新たな知見について、論理的に提示しているもの（独創性）。論文の形式は、原則として、はじめに、研究目的、研究方法、結果、考察、結論、注（記載されている場合のみ）、文献リストの順とする。
- [2] **調査報告**：原著性の明確化については問わないが、精神保健福祉学の発展に貢献する新たな知見について、調査結果から論理的に提示し、実践的な研究成果を明確に記したもの（独創性）。論文の形式は、原著に準じる。
- [3] **実践報告**：原著性の明確化については問わないが、実践にとって示唆に富んだ事例や、先駆的・啓発的実践を具体的に記したもの（実践的価値）。事例や実践の内容が精神保健福祉学の発展にとって有益であれば、失敗例や未終結のものも含む。

- [4] **資料解題**：出典の明らかな既存の資料に基づいたものであり、著者の主張が明確に示されており、資料解題として価値があると判断されるもの。

### 3. 投稿原稿の記載方法

- [1] 原則としてパソコンで作成し、縦置き A4 版用紙に横書きで 20,000 字 (40 字×40 行×12.5 枚) 以内とする。図表は 1 頁全体を使用するものは 1,600 字換算とし、その他は 1 点につき 600 字換算とし、本文、図表、注、文献を含めて規定内に収める。
- [2] 本編 1 部には、以下の事項を記載した表紙の 1 枚目から 3 枚目までを必ずつけることとし、コピー 3 部には、表紙の 2 枚目と 3 枚目のみをつけるものとする。本文にはタイトル (英文タイトル併記) のみを記載し、所属、氏名、会員番号を記載しないこと。
- [3] 表紙の 1 枚目には、①タイトル、②原稿の種類、③氏名 (ローマ字併記、連名の場合は全員ローマ字併記)、所属(連名の場合は全員の所属)、④会員番号 (連名の場合は全員)、⑤連絡先を記入する。なお掲載時には読者からの問い合わせを可能にするために、電子メールアドレスを脚注に入れる。
- [4] 表紙の 2 枚目には、和文抄録 (400 字以内) とキーワード (5 語以内) を記載する。-
- [5] 表紙の 3 枚目には、英文抄録 (200 語以内) と英文キーワード (5 語以内) を記載する (ただし、実践報告、資料解題については、英文抄録は不要)。
- [6] 掲載決定通知後の最終原稿の本文・注・文献リストは、電子メールの添付ファイルで学会事務局宛てに送信するとともに、印字した原稿 (40 字×40 行×12.5 枚以内) を 2 部提出する。図表は、本文とは別に 1 葉ごとに A4 版にコピーして提出する。図表の挿入箇所は、本文に明記する。なお、特別の作図などが必要な場合には、自己負担を求めることがある。
- [7] 文章の形式は、口語体、常用漢字を用いた新仮名づかいを原則とする。
- [8] 投稿原稿に利用したデータや事例等について、研究倫理上必要な手続きを経ていることを本文内に明記すること。また、記述においてプライバシー侵害がなされないように細心の注意を払うこと。なお、投稿者が所属する

機関等に設置されている、いわゆる研究上の倫理審査委員会の承諾を受けている場合、当該機関等の名称は匿名とし、掲載決定後の最終原稿において、実名を表記すること、調査協力者等への謝辞についても同様の扱いとすること。

- [9] 投稿論文の査読は、著者名等を匿名にて行っているため、文献等の表記の際には、本人のものであっても「筆者」「拙著」等とせず、筆者名による表記とする。

#### 4. 文献の表記

- [1] 文献は、引用文献および参照文献とする。
- [2] 文献リストの記載順は、著者名のアルファベット順（日本語のラ行はRの位置につける）、同一著者の場合は出版年の古い順とする。外国誌については、Index Medicus による略名を用い、省略記号は付けない。著者名は、3名以下の場合には全員、4名以上の場合には3人目までの名前を記し、4人目から et al.（欧文）または、他（邦文）とする。文献リストに通し番号を付すること。
- [3] 文献リストの通し番号は、本文中の引用・参照部分に上付 1 / 4 角 [例 <sup>1)</sup> <sup>2)</sup>] で表示した番号と一致させること。
- [4] 文献の書き方
- ・ 雑誌の場合 著者氏名：論文題名. 雑誌名, 巻（号）; 頁（通巻頁の場合は号は不要）, 西暦発行年.
  - ・ 単行本の場合 著者名：書名. 発行所名, 発行地（国内は不要）, 頁（単著は不要）, 西暦発行年. あるいは 著者名：論文題名.（編集者名）書名, 発行所名, 発行地（国内は不要）, 頁, 西暦発行年.
- [5] 記載例
- 1) 知名孝：サンフランシスコ市 CBHS に見るパラダイムシフト. 精神障害とリハビリテーション, 15(1); 47-53, 2011.
  - 2) 伊藤ひろ子：精神障害者のセルフヘルプ・グループに関する一考察.（久保絃章・石川到覚編）セルフヘルプ・グループの理論と展開, 中央法規出版, 128-154, 1998.
  - 3) Leff J, Warner R: Social inclusion of people with mental illness. New York, Cambridge University Press, 2006.
  - 4) Salyers MP, Bond GR, Teague GB, et al: Is it ACT yet? Real-world examples of evaluating the degree of implementation for assertive community treatment. Journal of Behavioural Health Service and Researches, 30(3); 304-320, 2003.

5)田中英樹：精神障害者の地域生活支援．中央法規出版, 2001.

## 5. 査読による修正の要請

査読により修正を要請され再投稿する場合には、再投稿論文の本文中に修正箇所を赤字下線付きで明示することとし、修正箇所一覧を別紙にて作成し、査読による修正の要請への対応の概要を明記すること。

## 6. 別刷

別刷は 30 部単位で実費とする。

附則 1 本要領は、2012 年 8 月 6 日から施行する。

附則 2 本要領を変更する場合は、機関誌編集委員会の議決を経なければならない。